



◀出荷規格を確認する生産者



### 3年連続の販売額1億円を目指す

みょうが部会

特産品である「白神みょうが」の収穫・出荷を目前に控え、みょうが部会(大高英樹部会長)は7月26日に目揃会を開きました。

目揃会には、生産者やJA、山本地域振興局職員ら約60人が参加。生育状況や今後の管理、市場情勢、出荷規格などについて説明をしました。

はじめに大高部会長が「春先の低温や干ばつなどの影響があったものの、みょうがは順調に生育している。この後、収穫作業が本格化するが、高品質のみょうがを出荷し、消費者に涼しい気持ちをお届けしていこう」とあいさつ。その後、山本地域振興局職員からは今後の管理について説明があり「この先、気温が高い見通しで、生育が前進する可能性がある。適期の収穫に努めてほしい。また、根茎腐敗病やハダニ類などの病害虫対策も徹底してもらいたい」と注意を呼び掛けました。

また、目揃会の前にはJAあきた白神宮農部で「白神みょうが豊作祈願神事」が行われ、みょうが部会役員やJA職員らが参加し、農作業の安全と豊作を祈りました。今年度は、販売数量90.1t、販売金額で1億1600万円を計画しています。



▲豊作を祈って行われた神事

### 北欧の杜公園で健康づくり

生活課

JAあきた白神は健康寿命100歳プロジェクトの一環として、7月8日、ノルディックウォーキングを開催しました。今年で4回目となるウォーキングイベントには管内外から約30人が参加し、北秋田市の秋田県立北欧の杜公園のウォーキングコースを約1時間かけて歩きました。

この日は、白神ノルディックウォーキング倶楽部会長の佐々木昇氏と高橋則子氏がウォーキング指導や公園内の案内をし、参加者らは、広大な北欧の杜公園のコースを軽快なウォーキングで気持ちのいい汗を流しました。参加者からは「昨年に引き続き参加したが、他の参加者とも話ができて、楽しく汗を流せた」といった声が聞かれました。



▲軽快に歩く参加者



▲横断歩道を渡る練習もしました

### 超神ネイガーによる交通安全教室を開催

共済課

JA共済連秋田が主催する「超神ネイガー」の交通安全教室が、7月9日に学校法人愛慈学園愛慈幼稚園で開かれ、園児達は秋田県のご当地ヒーローから正しい交通ルールを学びました。

この教室は、JA共済連秋田と県内各JAが幼児の交通事故を防ごうと各地で開催している。この日は園児90人が参加しました。教室では、①車道の近くで遊ばないこと、②車道を渡る際は横断歩道を利用すること、③渡る前に車が来ないか必ず左右の確認をすることなどについて、ネイガーらがショーを交えて分かりやすく解説しました。最後は、全員で交通安全体操を踊り、会場は大いに盛り上がりました。

